

「邪道」な飲兵衛 正当な酒飲みに憧れる

俳優 六平直政

オレはね、酒とは20歳前から付き合っている。うちのオヤジが変わっていて、「大人になったら酒も煙草もやっついでいい」と一見まともなことを言うんだけど、「大人」というのがカギで、その定義が一人前に働いてカネを稼ぐことができること。だから、10歳で丁稚として働いて家にかネを入れていた祖父は、その時点ですでに大人で、当然のようにその頃から酒も煙草も楽しんでたというんだ。オレも同感で、10歳とまでは言わないけど、仕事をきちんとこなすことができれば年齢に関係なく、大人として酒も煙草も許されていいと思っている。

高校卒業後、武蔵野美術大学彫刻科へ進んだオレは、その定義でいうなら酒を飲むのはおかしいと思う。でもオレは大学へ行きながらも、八王子の小さな鉄工所でアルバイトをして、授業料も自分で稼いでいたんだ。だからオレも立派な大人だったんだよ。

その鉄工所の社長に酒も煙草も、そしてソープ(ランド)も教わった。男が大人になってやることは、一番目が「仕事」。それ以外には「酒を飲むこと」「煙草を吸うこと」「女を抱くこと」だと学んだ。中でもオレにとってはお酒が一番だった。そのおかげで、酒なら何でも飲める。すべての酒が好きなんだ。焼酎に日本酒、ビールにワイン。ブランデー、リンゴ酒、テイオベペ(シエリー酒)……、もうなんでもござれだ。

鉄工所の酒、劇団の酒

なぜ、その鉄工所に入り浸るようになったか

というと、師匠のアトリエがそこにあったから。東京都庁に彫刻が掲げられているが、現代彫刻家で著名な篠田守男にオレは師事していた。篠田先生に教わりたくて武蔵美に入ったんだけど、入ったとたん篠田先生が辞めちゃって、八王子の鉄工所をアトリエに使いはじめた。だから追い掛けてオレも行くようになった。そこでは篠田先生ともガンガン飲んでた。社長や先生以外にも飲む相手は無数にいたし、毎晩、キャベツをつまみに飲んでた。だから、この工場がオレの青春のホームタウンだったんだ。そこではいろんなことを学んだし、人間形成の場にもなった。

あまりにも工場に入り浸り、大学院時代はほぼ大学へ行かなくなり、ついに主任教授とケンカ。まったく意見が合わず、辞めてやったよ、あんなへボ大学は。

その後、劇団に入るんだけど、そのきっかけは、当時付き合っていた彼女の影響。彼女が唐十郎さんの「状況劇場」が好きで、一緒に見に行くようになって、自然と芝居にもセットにも魅了されていった。彫刻ではすでに頭角を現していたんだが、篠田先生に相談してみると、「ろっぺい君(オレのこと)はね、彫刻家としても大成しているけど、話も面白いし、芸能の世界に向いていると思う」と言われた。

それをまともに受けて、新聞に出ていた状況劇場のスタッフ・キャスト募集に応募したら受かっちゃった。

そこからは劇団生活のスタート。ところが、連日連夜、稽古後は酒好きの唐さんを囲んで

飲み会さ。劇団員はカネがないから、みな夜のバイトを入れているんだけど、座長が飲むと言えばバイトなど行つていられない。だからいい加減なバイトなら来るなど、何度もクビにされた。

唐さんは酔つてくると「〇ちゃん、ちよつと歌つて」、「×〇ちゃん、青年の主張やつて」とリクエスドしてくる。それに応えて皆、ちよつとした芸を披露する。唐さんに面白がられると次の台本に名前が載るからね。でも唐さんの虫の居所が悪いと、「つまんねえよ」といつて、一気に宴会がお開きになったりもした。



Naomasa Musaka

ら、そこにある自転車でもかけてやれ」つてね。自転車をかけても風邪ひくでしょ。

オレ？ オレはいくら飲んでも一切変わらない。すこしエロっぽくなるだけ(笑)。たぶんアルコールを分解する酵素が多いんじゃないか。嘔吐や暴言、暴行など一切したことがない。「日本酒はいくら飲んでも酔わない」と3升くらい平気で飲む長男もこの血を継いでいる。家系的に酒が強いんじゃないか。もちろん、オヤジも酒豪でオレもかなわない。教師だったオヤジの元にはよく教え子たちが集まり、酒を酌み交

わしていたんだけど、一番オヤジが酒に強かったし、とにかく、酒の飲み方がうまかった。

舐めるように酒を飲む。たしなむつていうんだな。「飲兵衛」とはよく言うが、飲み方が上手いからこそ、得られる称号だ。飲み方が雑な奴はダメ。かく言うオレもずつと雑な飲み方しているから、いまだにダメなと思う。

よき「邪道飲兵衛」のススメ

いい飲兵衛は実に品があつて、ずつと飲み続けることができる。途中でぶつ倒れるなんてもつてのほか。つまみも何でもいい。でもいい飲兵衛が食べるものは美味しいものばかりだ。「白子のボン酢」や、「からすみ」、「くちこ」、「あぶつても(スズメダイ)」とかね。いい酒飲みはいい肴を知っている。とにかく賑やかにガツツて飲むタイプのオレだが、そろそろ酔いで

い飲兵衛になりたいとは思ふ。でも、まあムリだな。まず人間的に落ち着きが足らない。もつとゆつくり飲まなきゃと思うんだけどそれができない。せわしいつらありゃしない。かつてオヤジに「お前は酒飲みじゃない」と言われたことがある。ホントの酒飲みは一人でも飲みに行くけど、オレは行けない。オレは酒を媒介にして、わいわい飲んで、美味しいもの食つて……、だから、酒飲みとしては「邪道」なんだ。粹でかつこい飲み方に憧れてもわいわいが好きだからできない。

だつて、酒を飲む時間は楽しんで飲みたいんだ。仕事の関係で飲んでも、友人らと飲んでもとにかく楽しく飲みたい。美味しい料理と酒を媒介として楽しく語り合いたい。そうして夜が更けていくという豊かな時間が好きなんだ。オレの好きな料理と酒の組合せは、ワインな

らモツァレラチーズの「カプレーゼ」に白身魚の「カルパッチョ」、焼酎なら「地鶏の炭焼き」で、日本酒なら「ぬた」と「豆腐の白和え」だ。料理名挙げただけで喉が鳴る。

ただ、たまに見かけるけど、酒を強要するヤツは許せない。これは邪道を通り越して「外道」だ。お酒つて楽しく飲めれば量なんて関係ない。それを「もつと飲めよ、楽しい夜なんだからよ。付き合ひ悪いな」なんていうヤツを見つけると頭にくる。他人にとやかく言われて飲むもんじゃないんだ。そんな酒を強要するヤツあ、死んだほうがいい。

どんなに楽しい酒でも相手に対するリスペクトしていなければならぬ。飲み方はガサツでもいいんだけど、一人よがりではダメ、相手に対して気を使えなければいけない。それが出来てさえいれば「邪道」の飲み方でいいんだよ。

『唐版 風の又三郎』

作・唐十郎、演出・金守珍…紅テントにかつてないほど観客が押し寄せ、熱狂の渦に巻き込んだ伝説的傑作。甘美で切ない、恍惚と戦慄の幻想恋愛劇！

【出演】窪田正孝、柚希礼音、北村有起哉、丸山智己、江口のりこ、石井権一、山崎銀之丞、金守珍、六平直政、風間杜夫 ほか。

2019年2月8日(金)～3月3日(日)、Bunkamura シアターコウーン チケット料金：S席10,500円、A席8,500円、コウーンシート5,500円(全席指定・税込み)

『孤高のメス』(WOWOW 2019年1月13日スタート 毎日曜22時～全8話) 滝沢秀明が初の外科医役に挑む。

シリーズ累計160万部突破、初の連続ドラマ化。

【出演】滝沢秀明、仲村トオル、工藤阿須加、山本美月、石丸幹二、長塚京三、六平直政 ほか。

唐さん宛てに差し入れされた酒が劇団にわたさかあつてね。酒には困らなかつたが、高価なシャンパンやテリオオベなどは劇団幹部が飲み、オレたちは常に安酒、安いリカーの焼酎をライムシロップで割つたようなヘンな酒を飲んでたな。ヘンな酒だからさ、悪酔いするヤツもいる。酔つた先輩に2階から落とされたヤツもいた。すると、「外は寒しい、風邪ひいちゃいけないか

【プロフィール】

むさか・なおまさ……1954年4月10日、東京都生まれ。武蔵野美術大学彫刻科卒業。同大学院修士課程中退。劇団状況劇場を経て、新宿梁山泊の旗揚げに参加。『ジャズ大名』で映画初出演。最近の主な作品としては「八重の桜」(NHK)、「潜入探偵トカゲ」(バンチヨウ6)、「TBS」、「家政婦は見た」(NTV)、「三匹のおっさん2」(TX)など。